



**株式会社大阪エース**  
 摂津市鶴野 2-9-19-101  
 TEL.072-636-8201  
<http://www.osakaace.com/>



加工成形したウレタンに熟練のスプレー技術で彩色した店舗&住宅装備品を提供し、そのアートのような造形美で幅広い顧客をつかんできた大阪エース。父から引き継いだ2代目社長小川佳美氏が取り組む、同社の2本目の柱、成分と製法にこだわった手作り石鹸がブレイク中だ。

「きっかけは娘のニキビを治すためでした」と小川社長。上質なオリーブオイルにハーブなどをブレンド。100%天然成分なので「食べても大丈夫」と言う。商品の差別化に向け、ターゲットを男性に絞り、「コンプレックスに伝える」をコンセプトに生まれたのが男せっけんシリーズ。足の臭い、加齢臭、火照り、傷みややすいスキンヘッドといった「お悩み別」にニーズを絞り込んだ商品企画がヒット。意外にも購入者の5割以上が女性で、ギフトとしては勿論、本人の使用にも供しているようだと言う。ネットでの販売は順調で、ウレタン加工業との売上比率が6対4にまで肉薄。「スプレーを持ったり化粧品企画を考えたり、同じ社員が両方やります」と語るのは営業企画統括ディレクターの橘高昭晴氏。「ものづくりを楽しむ」という軸で一貫した、遊び心全開の創造的カンパニーだ。

「男の悩み」にニーズを絞った  
商品企画がヒット!



**株式会社日清精工**  
 東大阪市柏田西 1-11-2  
 TEL.06-6727-3717  
<http://www.nissinseikou.com/>



「生き残るためには自社製品の開発が必要」。金型製作という受注産業にあって、メーカーになることを決意した日清精工代表取締役、岩谷清秀氏。3次元CADと切削加工を組み合わせたDFD(デジタルフリーデザイン)と呼ばれる新技術により、シボ加工、写真からの立体成形など、金型の「表現力」を一気に拡げること成功。この新技術とインハウスデザイナーを活かし「つけまつげケース」の開発にこぎつけた。社長自ら率先してデパートの化粧品売場に足を運び、戸惑いながらも多くの女性にヒアリングを行ったと言う。同社のチャレンジを知った企業から、「立体部分にフルカラー印刷を」とコラボの申し入れ。その結果、シボ加工に合わせた立体プリントを施したiPhoneケースが誕生した。競合他社が多く厳しい市場ではあるが、東急ハンズ他、大手量販店で販売されている。金型づくりの更なる技術革新とともに、独自の商品づくりを成長戦略に掲げる日清精工のこれからに注目したい。

創造的金型ノウハウで、  
独自の商品づくりに挑む。



**富士高周波工業株式会社**  
 堺市堺区遠里小野町 2-3-15  
 TEL.072-229-0230  
<http://www.fuji-koushuha.co.jp/>

平成24年度  
ものづくり  
イノベーション支援  
プロジェクト  
認定

高周波&レーザーの二刀流で幅広い金属熱処理加工に対応。  
大手メーカーの研究開発にもコミットしつつ、独自の装置開発も射程に。

たとえば歯車の「歯」のように、摩耗しやすい部分の硬度を高めるといった「部分熱処理」を、1956年創業以来行ってきた富士高周波工業株式会社。同社がここ数年来力を入れているのがレーザーを使った焼入れ加工。深度の深い焼入れは高周波が適しているが、深度が浅く細かい熱処理はレーザーの得意技。しかもレーザーなら工程が一つ省け、納期短縮、コスト軽減というメリットが生まれる。高周波&レーザーの両刀使いが同社の強みだ。ドイツのレーザー発振機と自社の金属焼入れの経験をドッキングし、装置メーカーだけではできないレーザー焼入れ装置を開発中で、機械メーカーとしての雄飛も射程に入ってきた。

金属熱処理加工の受託と平行し、近年、同社のもう一つの柱になっているのが「研究開発の受託」。自動車、工作機械、医療機器、鉄工関係など多彩な大手メーカーが同社のノウハウを求めて門を叩く。メーカーのスタッフと対面しながら試作品を作り、そのノウハウを伝授。「研究開発が終わればメーカーはその技術をインライン化するので、以後の収益は発生しません。しかし数年先の動向をキャッチできるメリットが大きい」と後藤さん。技術立国の次世代をリードしそうな元気企業だ。



**株式会社山崎**  
 堺市南区三木開 148-1  
 TEL.072-297-0168  
<http://www.yamazakico.jp/>

平成24年度  
ものづくり  
イノベーション支援  
プロジェクト  
認定

新しいものへの挑戦。精度の高い製品をつくる自信が、  
視野を広げ、さらなる意欲につながる。

精密機械部品、搬送機器、工業用ロボット機器などのメーカー、株式会社山崎。製品の精度の高さを象徴するのが、「スクリー駆動コンベア」による搬送機器だ。大手製薬会社の検査ルートで、蓋のない容器に満たされた薬品を揺らさずに分速約30mで運ぶという難題をクリア。「24時間フル稼働で、約6年間メンテナンスもほとんど不要です」と技術開発部長の山上仁始氏。そのスクリーの技術を活かして開発されたのが、流水を利用するマイクロ水力発電システム。スクリー式増速機を搭載し、従来の歯車式よりもエネルギー効率を格段に高めた。水の流れを受ける板は、テント用膜材を交互に隙間を開けて取り付けすることで水路に流れるゴミなどを引っかかりにくくし、軽量化とスムーズな稼働を実現。構造的に小型化が可能なのも利点だ。4月下旬、新エネルギーの開発を支援する大阪府の事業に参加し、下水処理施設の放流水路に小型水力発電システムを設置した。「過去の実証実験で水路の水エネルギー60~70%を取り出した。長期間設置することで水車の耐久性などを検証し、環境意識の高い企業や自治体などへの拡販につなげたい」と意欲的だ。



**株式会社共伸技研**  
 門真市四宮 5-6-33  
 TEL.072-885-4344  
<http://www.kyoushingiken.co.jp/>

「仕事の効率アップは、3S活動から」を合言葉に、  
1個からの小ロット、オーダーメイドに応える技術を磨く。

創業以来、30年以上にわたって「工業用ブラシ」をオーダーメイドで製造販売する株式会社共伸技研。個々の状況に応じた形状へのカスタマイズが求められる製品のため、1個からの小ロットで引き受ける。多様なオーダーに高品質な製品づくりで応え、信頼性を高めてきた。一方で、社内改革への取り組みが「中小企業新事業活動促進法」の活用により成果をあげている。同法の承認に必要な「経営革新計画」を、3S(整理整頓清掃)活動や生産管理システムの構築などを盛り込んで実行することで2度の承認を受け、それを機に社内環境が飛躍的に改善した。代表取締役の加藤克典氏は「その計画に記した『最適化工場の実現』も、この7月に敷地面積が2倍近くになる工場へ移転という形でかなえました。達成感がありますが、まだ改良の余地は多い。新工場環境を整え、3S活動などへの社員の意識をさらに高めたい」と意気込む。同社は経済産業省が推進する2006年IT経営百選IT活用賞に選出された。ホームページにも力を注いでおり「自社の製品の作り方」を公開するなど、ユーザーの立場に立った情報提供を心がけ好評を博している。



**株式会社摂津金属工業所**  
 東大阪市加納 4-14-12  
 TEL.072-963-2606  
<http://www.settsukinzoku.co.jp/>

各工程の進捗を「見える化」するPOPシステムで、社内環境が改善。  
最新鋭3Dパイプ加工機を投入、低コストの高技術で次代へ挑む。

「今後の展開を考えたとき、必要な機械でしたので思い切って投資しました」と語るのは、パイプ加工、陳列什器の製造・販売を行う株式会社摂津金属工業所の代表取締役、田中啓司氏。国内初という「3次元パイプレーザー加工機」は、鏡面ステンレスや鋼管などの高反射素材のレーザー加工が可能なおうえ、従来は金型が必要だったプレスによる複雑な形状の穴開けや切断もプログラムを入力するだけでOK。「小ロットの生産や試作品などへも幅を広げ、デザイン性の高い製品開発にも取り組みたい」と田中氏。大胆でスピーディな設備投資の一方で、地道な社内改革も着々と進める。このほど、工場内にPOP(Point of Production)システムを導入。各部署でのバーコード入力での互いの生産工程の進捗状況が瞬時に分かるシステムで、従来の段階の上り下りによる確認作業をカットした。工程の負荷管理も容易になり、社員も利便性を実感し、半年ほどで仕事がやりやすい環境に一変したという。正確な稼働率や進捗状況が明確になり、「考えていたよりも作業が進んでいた」という嬉しい誤算も発見、外注費も削減できた。さらなる多品種少量への対応、環境への取り組みなど、同社の変革と挑戦はまだ続く。